



重点分野2 (中目標)	保健医療・教育等の分野における公共サービス向上											
開発課題 (小目標)	【現状と課題】 モルドバの社会保障部門・教育部門は、旧ソ連体制崩壊後の制度疲弊や人口動態の状況に対応するため、制度の効率化や財政面での改善等が必要とされている。保健医療分野では、社会主義時代からの非効率な医療供給体制と、体制崩壊後の医療保障に係る個人負担増の問題に対し、1次医療整備と2次・3次医療の統廃合、公的健康保険制度の導入が一定の成功を収めたが、疾患構造の変化(非感染症の増加)や社会の高齢化による将来の財政負担等への対応が必要とされる。教育分野においても、教育システムの効率化と教育財政の確保、義務教育等へのアクセス、教育施設の整備等が課題とされている。				【開発課題への対応方針】 同国の保健医療分野・教育分野の継続的な改革を支援することで国民の生活水準の向上を目指す。保健医療分野では、WHO、EU等の支援との重複を避けつつ、これまで草の根・人間の安全保障無償により支援してきた地方医療施設の更なる整備と共に、疾患構造の変化に対応した高度医療機材の導入や研修等によって、保健システム全体の強化(底上げ)に資するべく支援する。また教育分野においては、「平和と成長のための学びの戦略」の下、主に初等教育に係る地方の教育施設・設備の整備を支援する。更に、場合によっては多国間協カスキームも活用しながら、人身取引や障害者支援等への取り組みにも留意する。							
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考
保健医療・教育等の 公共サービス向上 プログラム	保健医療技術・サービスの近代化及び教育環境の改善を目指す。他援助機関の支援との重複を避けつつ効果的な地方公共サービス支援を実施する。	医療・保健分野の研修	課題別研修他									
		教育分野の研修	課題別研修等									
		医療・保健分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償									
		教育分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償									
		医療サービス改善事業	有償								59.26	
		障害を抱える児童を通常の学校に送るプログラム	マルチ								3.00	世銀日本開発政策人材育成基金(PHRD)

【凡例】「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」(＝個別機材)、「国別研修」(＝課題別研修他) (＝課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(＝青年海外協力隊)、「SV」(＝シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」(＝第三国研修)、「現地国内研修」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(＝水産無償資金協力)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「中小企業支援」(＝中小企業海外展開支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」及び「普及・実証事業」並びに中小企業連携促進基礎調査)、「実線」(＝実施期間)、「破線」(＝実施予定期間)  
※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。